

「介護助手とは？」

佐久市臼田にある特別養護・養護老人ホームうすだコスモ苑で介護助手として働く佐々木さん、田村さん、石川さん。

佐々木さんと田村さんは介護助手を始めて5年目、石川さんは1年目です。

ここ、うすだコスモ苑では、約20人の介護助手が働いています。

介護助手とは、介護職員をサポートするスタッフのことです。施設によっては介護助手ではなく介護補助員や介護サポーター、ケアサポーターと呼ばれているところもあります。何歳からでも始められ、特別な資格を持たずに介護の仕事に従事できます。



○介護助手になったきっかけは？

田村さん：「私の娘が介護施設で働いていて、日ごろの業務の大変さを話していました。利用者さんのケアをして、食事の準備をして、リネン交換など、ありとあらゆる仕事をしていました。そんな話を聞いていて、少しでも職員さんの負担が軽くなるように、何かお手伝いができればと思ったのがきっかけでした。」

佐々木さん：「田村さんに誘っていただいたんです。コロナが流行っていた時に介護助手という仕事が2時間単位であるって知って、お皿を洗ったりご飯を盛りつけしたり、こんなことなら介護の経験のない私みたいな主婦にでもできるかもと思い始めました。あと、私と主人の母親が長いこと施設にお世話になっていました。施設の方によくしていただいたので、自分の母ではないですが他のみなさんに何か恩返ししたいという思いもあります。」

石川さん：「私は知り合いからの誘いといった感じで働くことになりました。別の仕事をしていたスポット的なのが珍しかったです。ご機嫌よく歌っているおばあちゃんがいたり、機嫌が悪い方もいたりしますが、空間が温かいんですね。居心地がいいというか。」

○仕事のやりがいとは？

佐々木さん：「この仕事をして一番感じたことは、生きているってことは 365 日3食を1食も抜かずに食べるということ。朝ご飯抜きっていうわけにはいかないし、夜のパートさんが休んじゃったから晩ご飯なしというわけにはいきません。こうやって施設が、ずっと続いていくってことはいろんな人の支えがあって成り立っていることだなと思い、自分の親もそういうところでお世話になって、本当に大変なことだったんだなと改めて感じながら今の仕事をしています。」

石川さん：「他の業界にはない、温かみがあると思います。それがやりがいというか、介護助手を続けている理由になっています。」

田村さん：「テーブルを拭きに行けば、必ずありがとうと言われる。認知症の利用者さんだけども必ずありがとうと返ってくる。」

○シニア世代が働くメリットはどのようなものがありますか？

田村さん：「今、シニアといってもとても元気ですよ。だからもったいないと思っちゃう。人生長く生きてきた分、色々な経験もしているし、違う面で利用者さんを見られるし、スタッフも見られる。そういった面ではお手伝いをもって思いますよね。」

佐々木さん：「2時間から2時間半の仕事なので1日のうちそのくらいだったらそこを仕事に取られても、残りの時間は結構長いですよ。だから自分のことはそれなりにできるし、私たち世代の方でお家にいるのであれば、本当にお勧めしたいです。子育て中で昼間そんなに家をあけられないっていう方も保育園や学校に送り出したあと、帰ってくるまでの時間で隙間バイトのような形で働くこともできます。」

○どんな人でも介護助手になれますか？

佐々木さん：「そうですね。誰でもなれると思います。ただ、お金の面ではアルバイトみたいなものですので、お金じゃなくてやりたいと言ってくださる方がいれば一番いいですね。この仕事の魅力もやってみないとわからないところがあると思います。」

○同じ世代に向けて伝えたい想いはありますか？

佐々木さん：「私たちは介護される側にどんどん近づいてきているんですよ。その時になって（介護が必要になって介護する人が）誰もいないっていう状況にならないようにしなきゃいけないと思います。私は昼間仕事をしているから夜だけしか行けないとか、朝の早い時間しか行けないとかでもいいのでちょっとずつでも関わってみんなで助け合うことが必要だと思います。」

田村さん：「みんな必ずそういう（介護が必要な）分野に入るんだからね。誰もがね。だからできるときに関わってもらって、それで介護助手を増やしていくっていうのはとてもいいことだと思いますよね。」

「介護職員から見た介護助手の存在」

（柳澤施設長、嶋崎課長）

昔は食事の配膳やリネンを介護職員がやっていました。当時はそれだけで1日の仕事が終わってしまうということがありました。今は介護助手の方々がそういった介護の周辺業務を担っていることで、介護職員が利用者さんと向き合う、接する時間をしっかり作れるようになっていきます。また、今後、介護の資格を持っている人や介護の資格を取ろうとする人は減っていくと思います。その中で仕事と仕事をつないでいくためにも、介護助手は必要になってくると思っています。

(インタビューをしてみて)

介護助手の佐々木さん、田村さん、石川さん、柳澤施設長、嶋崎課長の5名の方からお話を伺いました。介護助手として働く3名の方の力強さに圧倒されながらインタビューをしました。3名の方の介護助手という仕事に対する熱い気持ちや、熱心さが話の中から常にうかがえました。

まだ、一般的には知名度が低い介護助手という仕事ですが、介護人材が不足していく現状の中で今後、必要不可欠な役割になっていくと思います。